

令和6年度事業計画書

令和5年3月に策定された「第3期北海道スポーツ推進計画」では、本道における障がい者（成人）の週1回以上のスポーツ実施率を、令和9年度までに、現在より10%増となる40%にする目標を掲げている。一方で、そうした日常的なスポーツ実施の成果を発揮する場となるスポーツ大会への参加者数は、コロナ禍による停滞の影響等もあり、それ以前と比較して大きく減少している。

本年はパリオリンピック・パラリンピックの開催を控え、障がい者スポーツについても、注目が集まる機会になることが見込まれるが、同様にスポーツ振興の推進力として期待していた「札幌オリンピック・パラリンピック」については、その招致活動が停止された。

こうした状況を鑑みても、道内各地域に暮らす障がい者が、日常的にスポーツを楽しむための環境構築は急務であるが、その整備にあたっては、官民一体となった推進体制づくりが重要な課題である。

当協会では、本年度も障がいのある人がスポーツを楽しみ、健康と心豊かな社会生活をサポートするため、全道各地で各種事業に取り組み、本道における障がい者スポーツの推進と参加機会の拡充に努めて参りたい。

I 大会開催等の事業（公益目的事業1）

～障がい者スポーツの競技力向上と振興を図るための大会開催等の事業～

1 大会開催事業

(1) 第62回北海道障がい者スポーツ大会の開催

身体障がい者及び知的障がい者が、スポーツを通じて体力の維持増進を図り、障がい者の自立と社会参加を促進させるとともに、障がいに対する道民の理解を深め、本道における障がい者のスポーツをより発展させることを目的として開催する。

第62回大会は、十勝管内の6市町村において全6競技を9月に開催する。平成10年から振興局持ち回り方式の開催となって以降、十勝管内の複数の市町村において広域開催するのは、平成13年、平成25年につづく3回目となり、帯広市が大会事務局として、大会運営の中核を担う。

大会は、本道では最大規模の障がい者スポーツイベントとして、これまでに道内の百を超える市町村で開催されてきたが、団体競技のチーム活動が、コロナ禍等のため停滞していた影響により、競技成立に必要なエントリー数が得られるかどうか懸念される場所である。

本大会は、全国障害者スポーツ大会に派遣する北海道選手団の予選会も兼ねており、陸上競技に参加した選手を対象に、令和7年度に滋賀県で開催される全国大会に出場する代表選手を選考する。

■開催年月日 令和6年9月29日（日）

■開催市町村 帯広市・芽室町・音更町・新得町・池田町・中札内村

■参加見込数 選手600人 役員等600人 合計1,200人

実施競技	開催地	競技会場
陸上競技	帯広市	帯広の森陸上競技場
車いすバスケットボール	芽室町	芽室町総合体育館
バスケットボール	音更町	サンドームおとふけ
サッカー	新得町	新得町スポーツ芝生広場
ソフトボール	中札内村	札内川総合運動公園ソフトボール場
フットソフトボール	池田町	池田町河川パークソフトボール場

(2) 第44回北海道障がい者冬季スポーツ大会の開催

障がい者が冬季スポーツを通じて、健康な心身の維持増進を図り、希望と勇気を持って社会に参加するとともに、道民の共感を呼び起こさせ、共生社会の理念の浸透を促進させることを目的として開催する。

本大会は、1981年の国際障害者年を記念して、昭和57年3月に小樽市の天狗山スキー場で第1回大会が開催され、以来、道内各地のスキー場で毎年開催しており、本道における障がい者スキーの普及発展に大きな役割を果たしてきた。

身体障がい者が参加するスキー大会としてスタートした本大会は、その後、平成12年の第19回大会から知的障がい者のクラスを設け、平成23年の第30回大会以降は、精神障がい者も参加する三障がい合同の大会として開催している。

本道は冬季スポーツに恵まれた環境にありながら、競技人口は減少傾向にあり、障がい者の冬のスポーツの普及のためには、より身近な場所で、気軽にスポーツを楽しむことができる機会を提供することが最も重要であり、本大会を継続開催する意義は極めて大きい。

■開催年月日 令和7年2月予定

■開催地 未定

■参加見込数 選手150人 役員等200人 合計350人

競技名	ランク・距離（予定）	競技会場
大回転競技	Aランク600m Bランク400m Cランク300m	未定
距離競技	Aランク3000m Bランク1000m Cランク500m Dランク150m	未定

(3) はまなす車いすマラソン2024の開催

障がい者が車いすマラソンを通じて、お互いの理解と親睦を深めるとともに、希望と勇気を持って社会に参加する意欲を喚起させ、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者のスポーツの振興及び共生社会の理念の浸透を図ることを目的として開催する。

ハーフマラソンとショートレースのいずれも、札幌市街中心部の駅前通りをスタート地点とするほか、ショートレースでは障がい者が重度の選手も多く、伴走者の参加も認められている。

北海道マラソンとの合同開催が10年目となる今大会では、各選手には札幌市街中心部を疾走する爽快感を、沿道の市民には力走する選手の姿により、障がいの有無に関わらず、一人でも多くの人々に車いすマラソンの魅力をアピールし、共生社会実現への機運醸成、障がい者スポーツの理解促進、大会への参加促進を図る。

■開催年月日 令和6年8月25日(日) ※前日の24日(土)に受付、説明会等を実施

■開催地 札幌市

■参加見込数 選手200人 役員等80人 合計1,000人

実施競技	競技コース
ハーフマラソン(公認コース) 21.0975 km	大通西4丁目スタート～新川西1-1(新川通)フィニッシュ コース名:はまなす車いすマラソンコース
ショートレース(オープン競技) 1 km/2 km	大通西4丁目スタート～南大通折り返し～北3条折り返し～フィニッシュ

(4) 競技別スポーツ大会の開催(主催・共催)

障がい者が競技等を通じて、スポーツの楽しさを体験するとともに、健康の維持増進、機能回復を図り、参加者との交流を深めることにより、障がいに対する道民の理解を深め、社会参加の意欲の向上を図ることを目的として開催する。

開催する7大会の内、アーチェリー大会など6大会は、翌年度の全国障害者スポーツ大会に派遣する代表選手の予選会を兼ねて行われるため、出場選手は高いモチベーションで大会に臨んでおり、好記録が期待できる。各大会の日程が分散されており、複数の大会に出場する選手も多い。

大会名	開催日
	会場名
第39回北海道身体障がい者アーチェリー競技大会	令和6年6月23日(日)
	月寒アーチェリー場(札幌市)
第25回北海道ボッチャ選手権大会(共催)	令和6年8月18日(日)
	道立野幌総合運動公園(江別市)
タンデムサイクリング大会	令和6年8月25日(日)
	セラミックアートセンター(江別市)
第35回北海道障がい者水泳大会	令和6年9月8日(日)
	平岸プール(札幌市)
第30回北海道障害者フライングディスク大会(共催)	令和6年(時期未定)
	つどーむ(札幌市)
第36回北海道障がい者ボウリング大会	令和6年10月20日(日)
	GiGO BOWL 西友手稲(札幌市)
第36回北海道障がい者卓球競技大会	令和6年11月17日(日)
	札幌市身体障害者福祉センター

2 大会派遣事業

第23回全国障害者スポーツ大会北海道選手団派遣

障がいのある選手が、障がい者スポーツの全国的な祭典であるこの大会に参加し、競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がい者の社会参加の推進に寄与することを目的として派遣する。

本年度の大会は10月に佐賀県で開催され、北海道選手団は個人7競技に72名の選手を派遣する計画であり、スタッフも含めると114人の選手団が参加する。

団体競技は、北海道・東北ブロックの予選会において優勝したチームが全国大会に出場することとなり、ブロック内の1道6県2指定都市の代表チームが対戦する各競技の予選会が6月頃に各地で行われる。予選会の競技分担は、ブロック内で調整の上、決定する。

事前の強化合宿は、2班編成で実施し、選手とスタッフが起居を共にする3日間で、個々の選手の競技能力と適性を見極め、参加出場種目を決定するとともに、北海道選手団としての自覚と誇りを涵養し、団結力の向上を図る。

■強化合宿 道立野幌総合運動公園（江別市）

第1班 令和6年5月10日(金)～12日(日) 水泳・アーチェリー・卓球・ボッチャ・ボウリング

第2班 令和6年5月24日(金)～26日(日) 陸上競技・フライングディスク

■北海道・東北ブロック予選会（団体競技）

複数の予選会にチーム派遣予定

■選手団派遣

令和6年10月24日(木)～29日(火) 佐賀県 選手72人・スタッフ42人（団体競技未定）

■大会開催

令和6年10月26日(土)～28日(月)

■競技会場（個人競技）

式典/競技名	式典/競技会場	派遣選手数
開・閉会式	SAGA サンライズパーク SAGA スタジアム（佐賀市）	—
陸上競技	SAGA サンライズパーク SAGA スタジアム（佐賀市）	30人
水泳	SAGA サンライズパーク SAGA アクア（佐賀市）	10人
アーチェリー	鹿島市陸上競技場（鹿島市）	2人
卓球	基山町総合体育館／基山町公民館（基山町）	12人
フライングディスク	伊万里市国見台陸上競技場（伊万里市）	10人
ボッチャ	U-S p o 嬉野市中央体育館（嬉野市）	2人
ボウリング	ボウルアーガス（佐賀市）	6人
	計	72人

■派遣選手選考委員会（第24回全国障害者スポーツ大会「滋賀県：R7.10.25～27」）

令和7年2月予定 かでの2・7会議室 選考委員12名

Ⅱ 指導者育成等の事業（公益目的事業2）

～障がい者スポーツを普及啓発するための指導者育成等の事業～

1 指導者育成事業

(1) 障がい者スポーツ競技指導者研修会

障がい者スポーツの振興と競技力向上にあたる指導者の資質と指導力の向上を目指し、障がい者スポーツ指導者を養成することにより、障がい者の自立と社会参加を促進するとともに、障がい者スポーツ環境の一層の充実を図ることを目的として実施する。

9月に開催する北海道障がい者スポーツ大会に併せて、競技運営に携わる地元の審判員を対象に、事前の研修会を実施するものであり、障がい者スポーツのルールを学び、研修を積むことにより、地域における障がい者スポーツのマンパワーの拡充に繋げている。

研修会を実施する競技は、陸上競技、車いすバスケットボール、フットソフトボールの3競技であり、一般競技とのルールの違いや障がい者スポーツ特有のジャッジの仕方について習得する。各競技のエキスパートである講師を現地に派遣し、実技も交えた実践的な講習を行う。

■ 競技指導者研修会実施計画

研修会名	実施予定	研修対象団体
陸上競技審判研修会	令和6年(未定)	十勝陸上競技協会
車いすバスケットボール競技審判研修会	令和6年(未定)	帯広地区バスケットボール協会
フットソフトボール競技審判研修会	令和6年(未定)	池田町ソフトボール協会

(2) 初級パラスポーツ指導員養成講習会

障がい者スポーツの指導者を目指す者を対象とした、日本パラスポーツ協会公認の指導員養成講習会を3日間の日程で実施する。

初級パラスポーツ指導員は、主に初めてスポーツに参加する障がい者に対し、スポーツの楽しさや喜びを重視した、スポーツ参加のきっかけ作りを支援する者と位置付けられており、18歳以上であれば受講資格があり、指導経験などは問わない。また、初級指導員資格取得後、2年以上かつ80時間以上の活動実績があれば、中級の受講資格ができるというように、順次ステップアップできる制度になっている。

公認指導者は、障がい者が日常的にスポーツを実施する上で、地域内に不可欠な存在と考えられるが、現在、道内で活動する約1,000名の公認指導者の多くが、札幌市や旭川市に偏在しており、多くの市町村では公認指導員が不足または一人もいない状況が続いている。

指導者の養成は、重点的に取り組むべき課題であり、障がい者のスポーツ実施率の向上、各地域における障がい者スポーツの環境を整備する上で、体制をより充実させる必要がある。

■開催年月日 令和6年11月8日（金）～10日（日）

■開催地 札幌市（北海道青少年会館コンパス）

■受講定員 24名

■講習内容 全21時間（講義・実技）

2 普及啓発事業

(1) 障がい者スポーツ教室

スポーツに親しむ機会の少ない障がい者が、障がいの特性に応じたスポーツを生活の中に取り入れるための契機となるよう、各種スポーツのルールや基本的な技術を修得するとともに、スポーツに親しみ、多くの仲間と交流しながら、社会参加意欲の向上を図ることを目的として実施する。

本教室は、一過性のイベントにならないように実施団体の自主性を重んじており、教室で実施する競技種目は地域のニーズに応じて自由に選択し、講師の人選や会場の確保、参加者を募るPR活動から教室の運営に至るまで、実施団体が主体的に取り組んでいる。

この教室の開催を契機に、道内のあらゆる地域に障がい者スポーツの活動が根付くことを目標としており、スポーツをする場所が拠点となり、地域の住民や障がい者が集い、支援者の輪が拡がり、競技用具が整備され、スポーツが日常化するという好循環が生まれることを期待している。

■障がい者スポーツ教室開催計画

項目	実施内容
教室回数	20教室
参加対象	満年齢13歳以上の障がい者（身体障がい・知的障がい・精神障がい）
競技種目	水泳、ボウリング、ゲートボール、ティーボール、パークゴルフなど

(2) 会報紙の発行

会報紙「飛躍」は、当協会が設立した年の翌年となる昭和61年1月に創刊し、以来、38年にわたり継続して発行しており、当協会の歴史そのものと言える広報媒体である。現在は、隔月の年に6回発行しており、当協会の活動の支援者である賛助会員が主な購読者になっている。

掲載する記事の多くは、当協会の事業に関する計画や報告であり、写真を効果的に活用し、読みやすい紙面を心掛けている。また、関連団体が実施するイベントやパラリンピックの紹介記事など障がい者スポーツの時勢の動きについてもタイムリーに掲載するよう努めている。

(3) ホームページの運用

当協会のホームページは平成14年12月に開設し、その後、平成28年8月に全面的なリニューアルを行い、トップページや各サイトの構成内容を一新し、データ量と写真を大幅に増やすとともに、各事業の関係資料をダウンロードできる機能も付加した。

端末の画面サイズに応じて自動的にレイアウトを変更するウェブデザインを採用し、スマホでもタブレットでもパソコンでもストレスなく閲覧できる。また併せて速報性に優れたSNSを活用し、ホームページとの連動を図り、幅広い広報に努める。

引き続き、道内の障がい者スポーツに関する最新の情報をリアルタイムでユーザーに届けるとともに、より利便性の高い運用を目指す。

3 団体助成事業

障がい児者スポーツ団体助成

道内を活動拠点とする「障がい児者スポーツの振興事業を行う団体・グループ」への支援を通

して、本道における障がい児者のスポーツの裾野の拡大を図るとともに、障がいに対する道民の理解を深め、障がい者の社会参加の促進に寄与することを目的として助成する。

平成27年度に北洋銀行の協力によりスタートしたスポーツ応援事業は10年目を迎え、本年度も4月に助成の募集を行い、審査会による選考の上、1団体につき上限10万円、総額で90万円の助成金を各団体に交付する。団体には事業完了後、報告書及び必要書類の提出を義務付けている。

令和4年度から、新たに道の補助金による団体助成事業が加わり、総額100万円、1団体上限10万円を助成する。本事業は、北海道スポーツ推進条例が制定されたことを踏まえ、障がい者のスポーツに関する人材及び団体等の育成を図るために必要な施策として予算化されたものである。

Ⅲ 管理部門

1 会務

(1) 監事監査

実施日	実施場所	監査内容
令和6年4月下旬	かでの2・7 事務所	令和5年度事業報告・決算・理事の執行状況

(2) 理事会

開催日	開催場所	主な議案
令和6年5月中旬	かでの2・7 会議室	第1回理事会（令和5年度事業報告・決算）
令和7年3月中旬	かでの2・7 会議室	第2回理事会（令和7年度事業計画・予算）

(3) 評議員会

開催日	開催場所	主な議案
令和6年6月上旬	かでの2・7 会議室	定時評議員会（令和5年度決算・役員を選任）